

自立型の簡易通信基地局

東京工科大と開発

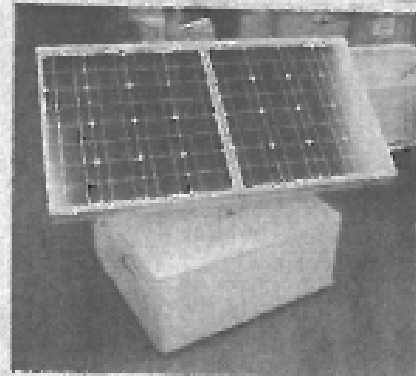
太子山王子
ロード
サイバー

【立川】東京工科大学の田胡和哉教授と「首都圏情報産業特区・八王子」構想推進協議会（サイバーシルクロード八王子、東京都八王子市）などのグループは太陽電池で稼働する自立分散型の簡易通信基地局を開発し

た。山間部の観光地や被災地など電力の届かない地域の通信インフラとして自治体に提案する。装置設計をソニーバス（八王子市）、製造をナカツ（同）が担当し産学連携で事業化を目指す。

300坪間隔で基地局を設置し、通信ネットワークを作る。ひとつの基地局が壊れても自動でネットワークを

▲
開発した太陽電池と鉛蓄電池、通信ユニットを搭載した簡易通信基地局



再構成する機能を設けた。電源は鉛蓄電池を搭載し、夜間でも稼働する。アンドロイド端末と連動しやすくするために基本ソフト（OS）にリナックスを採用した。

観光地では観光案内、被災地では復旧情報などを配信する。今後、用途に応じたアプリケーションを開発していく。